

令和元年度 東京都環境科学研究所

公開研究発表会

■ 日程 令和元年12月20日（金）
13時30分～16時40分（13時開場）

予約不要！
参加無料！

■ 場所 都民ホール（都庁 都議会議事堂1階）
■ 人数 先着250名

前後30分はロビーでポスター発表も行なっています！

特別講演

一般廃棄物焼却灰のリサイクル～意義と課題～

国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター
循環利用・適正処理処分技術研究室 室長 肴倉 宏史 氏



プログラム

13:30～13:35	開会挨拶	東京都環境科学研究所	所長	中村 豊
13:35～14:30	特別講演 「一般廃棄物焼却灰のリサイクル～意義と課題～」	国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 循環利用・適正処理処分技術研究室	室長	肴倉 宏史 氏
14:30～15:00	「焼却灰の物理選別・脱塩について —23区最後の最終処分場の延命化のために—」	環境資源研究科	研究員	飯野 成憲
15:10～15:40	「身近な化学物質の環境実態とリスク管理」	環境リスク研究科	研究員	加藤 みか
15:40～16:10	「大型貨物車の排出ガス計測—都内を走行した時のCO ₂ ・NO _x の排出量—」	環境資源研究科	研究員	秦 寛夫
16:10～16:40	「水素蓄電を活用したエネルギーマネジメントの研究」	次世代エネルギー研究科	研究科長	高橋 一之

※上記以外の研究成果等は都民ホール前ロビーにてポスターを展示しています。

（13:00～13:30、16:40～17:10は研究員が解説します！）

発表内容の詳細は裏面でご確認ください

問い合わせ

公益財団法人東京都環境公社 東京都環境科学研究所 研究調整課 研究調整係（広報担当）
TEL：03-3699-1333 FAX：03-3699-1345
E-mail：kanken@tokyokankyo.jp HP：https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/

主催：東京都環境局

実施：公益財団法人東京都環境公社
東京都環境科学研究所

発表詳細

<p>特別講演</p> <p>13:35 ~ 14:30</p>	<p>一般廃棄物焼却灰のリサイクル～意義と課題～ 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 循環利用・適正処理処分技術研究室 室長 肴倉 宏史 氏</p> <p>私たちが日々排出している家庭ごみは「一般廃棄物」として収集され、主に焼却処理され、そして、焼却灰のほとんどは最終処分場へ埋立処分されています。しかし最終処分場は有限なため、近年、様々な焼却灰リサイクルが進められています。本講演では、焼却灰に眠る金属資源の価値も含めながら、焼却灰リサイクルの意義と課題を解説します。</p>
<p>研究発表</p> <p>14:30 ~ 15:00</p>	<p>焼却灰の物理選別・脱塩について—23区最後の最終処分場の延命化のために— 環境資源研究科 研究員 飯野 成憲</p> <p>23区の家ごみ等を燃やした後に残る焼却灰の多くは、最終処分場で埋め立てられています。近年、焼却灰のセメント原料化が進められていますが、焼却灰にはセメント原料に有害な重金属や塩素が含まれています。そこで、焼却灰の物理選別や水洗脱塩によりこれらを回収、除去する研究を行ったため、その成果を報告します。</p>
<p>研究発表</p> <p>15:10 ~ 15:40</p>	<p>身近な化学物質の環境実態とリスク管理 環境リスク研究科 研究員 加藤 みか</p> <p>私たちは様々な化学物質の恩恵を受けて、便利で豊かな生活を送っている一方で、環境中に排出される化学物質が人の健康や生態系に好ましくない影響を及ぼす場合もあります。当研究所では、身の回りの化学物質の環境実態やリスク評価・管理に向けた調査研究を行っています。ここでは、関係機関との共同研究の結果も含めて報告します。</p>
<p>研究発表</p> <p>15:40 ~ 16:10</p>	<p>大型貨物車の排出ガス計測—都内を走行した時のCO₂・NO_xの排出量— 環境資源研究科 研究員 秦 寛夫</p> <p>大型貨物車は、地球温暖化物質である二酸化炭素（CO₂）と光化学オキシダントの原因物質である窒素酸化物（NO_x）の主要な排出源です。当研究所では近年、大型貨物車が実際に都内を走行した際、CO₂やNO_xがどの程度排出されるかを検討するため、専用の計測装置を用いて試験してきました。本発表では、それらの調査研究の結果について報告します。</p>
<p>研究発表</p> <p>16:10 ~ 16:40</p>	<p>水素蓄電を活用したエネルギーマネジメントの研究 次世代エネルギー研究科長 高橋 一之</p> <p>水素蓄電とは、太陽光パネルなどで発生して余った電力を水素にして蓄え、不足する時に電力に戻して使う技術です。変動する再エネ電力を有効に利用する手法として注目されています。当研究所では、2016年度からシミュレーションによる研究を行ってきましたが、小規模な実験設備を近ごろ導入し、新たな研究を始めます。本発表では、これまでの成果と今後の研究について説明します。</p>

ポスター発表

- ・ 都内河川上流域における窒素濃度経年変化及び窒素飽和
- ・ 都市ごみ焼却排ガスに含まれる水銀の活性炭処理に関する研究
- ・ 東京都内の中小規模事業所における省エネポテンシャルの推計
- ・ 2018年夏季における東京臨海部の大気汚染物質の挙動
- ・ 底質酸化による東京湾の貧酸素化・富栄養化の改善に関する検討

13:00～13:30、16:40～17:10
ロビーで研究員が解説します！

アクセス

- 各線新宿駅 西口から徒歩約10分
- 都営大江戸線都庁前駅 A3出口直結

※公共交通機関を利用して、ご来場ください。

